愛國婦人會機關

愛國婦人

每月十日廿五日發行

（定價）一部金五錢　一ヶ月分拾錢　三ヶ月分貳拾壹錢　半ヶ年分四拾錢　一ヶ年分八拾錢　全國郵送料郵券代用壹錢又は五厘切手は一割增
廣告料五號活字一行四拾錢

發行所　東京市麹町區下二番町三十一番地　愛國婦人會內　愛國婦人發行所
發行兼印刷人　山澤俊夫
編輯人　手島益雄

電話番町壹千三百三十番

社説

女子の智識

女子も智識無かるべからず。そは、往昔より、女子が智識の甚良じかりしにより、夫を助け、親を救ひ、又は子をして、偉業を卒からしめし例も少なからず、彼の、鏡匣の底に、黄金を藏め置きて、能く其夫が大事の用に供したりける、山内一豐の夫人は、士卒にかぶらする陣笠を、紙こよりして作り、澁塗として用ひしめ、其こよりには符號を附して、機密の通信書簡は、これに認めて、常に、夫と相往復したりといひ、又、源頼朝の幕下たりし、土肥實平が妻は、嘗て、頼朝が石橋の山中に隱ろひ居られける時、敵の斥候絶えず麓を徘徊して、粮食を送るに道無かりしを見て、心きゝたる兵を、黒衣の僧に出で立たせ、水桶に酒を入れ、櫃籠に食物を盛りて、持ち搬ばせけりとぞ傳ふる。これら智略に富めりし婦人は、なほ舉げて數ふるに遑あらじ。然るを、また一方には、『女さかしうして、牛賣損ふ』など云ひて、女子の餘りに、才まぐるは善からぬ事のやうにいふ人多く、成りにたるはいかなる故ぞや。そは、其れも亦理りある事なり。總じて、我れ賢こげに、誇り高ぶり、打ちふるまふ人は、男にてだに、憎げなるを、溫和謙遜なるべき女子の、つゆばかりも、左樣のふるまひあるには、いかでか憎げならざらむ。さるは。女は常に胸狹しといはるゝが誠にや。將た諺に言ふ、鳥無き里の蝙蝠とか、其餘りに、學問あり、智識ある人の、男子に比へて多からぬ故にや、ややもすれば、少し怜悧しげに見ゆる女は、とかくに、其怜悧し、物識顔などいふもの、鼻にかゝりて、ともすれば、親夫をかき退けてさし出で、又は、我け顔に專橫に行ひなどしつゝ、人の己れに劣りさまなるを見るときは、恰か虫けらの樣におとしめ見下だし、或ひは知らじと聞ゆるとを、わざと強ひて言はせ行はせなどして、面赤めするを見て冷笑し、又は世馴れぬぞちの、おゝくしたるを忍ひて笑ひ、目引き袖引き、さゝやき咄しつゝ、其顔を時々打ち見やりなどする等、人惡きしむけして、却りて、己れ賢しとする者無しとせず。況んや、言はでもよき事を言ひ、行でもよき事をわひ、親夫を蔑ろにして、自儘のふるまひを、其婢僕に示したるなどよ。げに女子の選びて、怜悧しき女よりも、柔順しきをとれといひたる、諺言にはあらじかし。古語にも『過ぎたるはなほ及ばざるが如し』とさへに言へるをや。されば、女子の智識甚だ必要なれども、其智識ある者、往々傲慢の心を增長し、爲に其淑德を害するの例少なからずとす。故に、目下の如く、女子の智識を附け加ふるの道、駸々乎として、日々に進み行く世に遇へる女子達は、殊にこの剛慢ふことを、抑制するにつとめて、新識に明らけき知の光を、磨き出ださんことを期すべし。

演説

歐米諸國の慈善事業に就いて（承前）

本會相談役　男爵　澁澤榮一

英國には滯在短かりしを以て、慈善事業に付き深き觀察を遂ぐることは能はざりしは遺憾とする所なり、倫敦に於て、勞働者の多くは東倫敦と稱する邊に居住する者にして、此地方にアレキサンドラ、ツラストと稱する者あり、勞働者に向つて最も安價に食物を供給する處にして、職工等が平日の物より稍美味を欲する時は、都合よく此處にて供給せらるゝなり。日本の貨幣に直して僅に六七錢を投ずれは、其切符を得て立派に此處で食するとを得る仕組にて、以て平日の勞苦を慰めしむるものなり。予が旅行中に戴冠式を擧行せられたる英皇帝エドワード第七世が、未だ皇太子にてプリンス、オブ、ウエールスと稱せられし頃は、時々此處にて貧民と共にスープを喫し給ひしとの談あり。總べて英國の救貧法は個人的の傾向を有すること、此一事を以ても知るべきことにて、斯くすれば救護を受くる方にても、兎に角他を拂うて之を購ふとなれば、人より物を貰ふとは大に感情を異にし、乞食の樣なる考を持つとなく、双方の感情甚だ宜しかるべしと思はる。

佛國にては感化事業大に發達して種々のものあれども、就中有名なるはメットレーと云ふ所の感化院なりと聞きしが、汽車の都合にて右程遠しかりし爲遂に行くとを得ざりし。巴里より二里許隔りたるガイヨンといふ所にも感化院あれば、是に就いて觀察したり。東京市養育院にも感化部を置きしが、予は之に付いて感ずる所ありて、此事業は餘程心を用ゐざるべからざるものなるとを常に考へ居る所なるが、人々不遇なる時は其不幸なる境遇の爲に、遂に其意思の上にも大に變化を及ぼし、益々不良なる境遇に陷ること往々あり。俗にカッパライなど云ふ者は、其始めは名のあるものにして且つ惡性あるにあらざれども、境遇の如何に由りて遂に其性を異にし、惡性を生し不幸なる境遇に陷るなり、故に是等は小兒の時より感化せざるべからず。佛國の感化院は六歲の頃より之を收容して、二十歲に至れば之を出院せしむることにて、人數は三百人程もあり、家屋職業の有樣は極めて行屆きたるものなり

以上米國・獨逸・英吉利・佛蘭西の四個國は共に商工業の盛なる國にして、又此等の慈善事業も疾くより發達せり。元來如何に富みたる國と雖も、美なる都會と雖も、貧民なきはあらず、故に是等の事業の大なるは其都會の全備せるの一斑を證するを得る。顧みて本邦に於ける是等救濟事業は、以上四ヶ國と比肩し得るまでに至りしや否や、予は之を知らざれとも、勞働問題・慈善事業に頗る改進を要するもの甚だ多からんと信す、此四恩瓜生會の本旨とする所は、彼の瓜生岩子刀自の宿志を系續するとにして、此事業に向つて、精勵盡瘁し、其發達を期するに在れば、茲に海外見聞の有樣を陳べて諸君の參考に供す。（完）

評議員　高木かう子筆

奥村五百刀子刀自と志を同うせむことを希ひて　評議員　中山幸子

百年のよはひも今は三十のみぞ
　あまる身ゆゑにこゝろせかせる

こゝろさす道はひとつに國の爲
　おもはぬ日とてあらされはこそ

奥村五百子刀自をことほきて

五百子とほおろかなりけり千年まて
　名はかくはしくのこりこそすれ

奥村五百子刀自のみ心をたゝへ奉りて　群馬縣會員　甲斐外技子

こがらしに木々の紅葉は散りゆけど
　色香ゆかしきしらきくの花

下田歌子女史の愛國婦人傳をよみ侍りて

奥山の清き流れにあらひけむ
　みとりしたゝる言の葉の色

我會の理事鍋島侯爵夫人が此程九州旅行の折から物し給へる歌ども聞きえたるまゝ茲に掲げつ　編者しるす

大演習御發輦あらせ給ふ折に

武士のこゝろもいかにはげむらん
　今日のみゆきをあふぎまつりて

いでましの御くるまあふぎつくしがた
　深き惠みのほどをしるらむ

祖先直茂卿にこたび位を給はりしを祝ひて

のぼる日の光りをうけて佐賀山の
　松のくらゐも立ちまさりつゝ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

會員方に告ぐ

來る一月一日、臨時增刊として愛國婦人第二十號を發行し、愛讀を辱うする會員方へ進呈致すべく候。此段豫告に及び候。

本年三月初めて本誌を發刊致し候てより以來、號を重ぬる事十九にして、茲に本年の終刊と相成申候。其間讀者ノ君々に對し、不行屆ノ事のみ多く、うたゝ赤面の至りに候。然るにも拘らず引き多數會員方の愛讀を賜はり候段深く感佩致し候。申す迄もこれ無く、本誌は愛國婦人會の爲、聊か貢献致さんとの微衷を以て、編輯發行の囑托を受け候儀にて、世の營利的新聞雜誌とは、自ら其趣きを異にするものに候へば、品格と見識とを保持する必要これ有り候て、俗流に諛ふて其歡心を迎へ、多數の讀者を貪る事を得ず候。隨ッて其維持の困難は最初より覺悟致候處に候。然るに幸にも、讀者ノ君方より厚き同情を本誌に寄せられ、甚しき收支不足を告げず、微力ながら本誌の發行を繼續し得るに至らしめられし段、茲に深く其厚意を謝する所に候。

明治三十五年十二月　愛國婦人主幹謹白

寄書

特別大演習と愛國婦人會（熊本支部の盛况一斑）

相談役　歩兵少佐　堀内文次郎

統監陛下が、遙々海陸數百里を越えさせられ、肥筑ノ野に於て御施行あらせられたる特別大演習に於て、統監部職員末に列するの幸榮を得たる私は、愛國婦人會相談役としても、誠に愉快極まる御土産報告を、會員諸君に向て持ち歸つたノてあります。其愉快なる御土産報告とは何てあるか？其れは、我々の愛國婦人會が、如何に地方官民の同情を受けつゝあるか、又其結果として、愛國婦人會熊本支部員が、他の多くの社團等に比して、如何に盛大なる奉迎送を爲したりしか、と云ふ事に就て、左の事實の景況を申上げる事であります。

統監陛下が、熊本城下春日停車場に、御安着あらせられたるは、去月十日午後四時五十五分であッて、文武高等官等、位置を占めたる式場の次に、我が敬愛する、此愛國婦人會員有功章佩用諸君が、赤十字社特別會員と相並びて、九州幾百万ノ奉迎者中最も上位置に、比較的數多く整列せられたるを觀たるだに、私ノ悦び限りないのであるに、續いて本會特別通常の會員たる、令閨貴孃幾百千人が、所狹きまで立ち並び居られた。其前を通過せる私の眼には、此愛國婦人會の徽章が、常日は又た、何とも得も言はぬ、一層の美觀を呈し光彩を放つて居る心地が致しました!!!

陛下御通御の頃は、花岡山頭、狼煙半空に轟き、遙に燃ゆる阿蘇の煙と相和して、洋々たる樂聲は「君が代」を三唱し、龍顏特に麗はしく拜し奉りぬ、

此ノ如き盛大なる、我愛國婦人會熊本支部諸君が、滿腔の赤誠を捧ぐる其間を、鹵簿粛々、鳳輦御事無く、銀杏城に入らせ給ひぬ。

終りに附記するは、大觀兵式の時に於ても、亦奉迎送の時の如く、赤十字社員と同一場所に、席次を設けられたる事、及び幹事長德久令夫人以下の熱誠なる盡力と、縣廳兵事掛川外諸君ノ厚き補助とに依り、熊本支部が益々幸運に向ひつゝある事と、他の社團等に先だち、獨り熊本支部が、左の如き廣告を爲されたるを見ても、如何に熊本支部が、熱誠を注ぎつゝあるかを、全國の愛國婦人會員諸君に御知せ申す事である。

> 今般　行幸十日午後四時五十五分熊本停車場御着車に付會員ノ奉迎場所は春日新済飽託郡役所の向ふ側に被定居候間可成早く御參着相成度又御服裝は白襟紋附穿物は草履の事右御通知申上候也
> 徽章必ず佩用のよ奉送場所同し
> 十月七日　愛國婦人會熊本支部
> 愛國婦人會員御中

此の廣告文は熊本市發行の諸新聞に出でたる其儘の大きさなり、　編者記す

講談

北京籠城の婦人

森林黒猿

北京籠城婦人の講談も意外に長くなりまして、定めしお倦き遊ばしたらうと存じますゆゑ、本回を以て終局となし、明年一月ノ初刊よりは、何か面白笑いものを演ずる事と致しませう。前號には休戰となッて、支那兵が積々食物を賣りに來ると云ふ所まで演じて置きましたが、食物ばかりでなく、遂には鐵砲彈を賣りに參りました。始めは彈一個を五十錢位な價に賣ッて參りましたが、逐漸價が下ッて、終には十五錢位になッたさうで在ます。すると或日一人の支那兵が、何だか長い物をアンペラに包んで擔いで參りましたから、人々何だらうと思ッて居ると、取出したのは二挺ノ小銃で在います。支那兵「是を買ッて貰ひたい、彈と一緒に持ち出すのが勿々骨が折れたから、廿の心算で成るべく高く購ッてくれ」と云ふので杉鍬太郎君が　杉「怎麼して持ッて來た、二挺ともお前の鐵砲か　支那兵「ナニ、自分の銃なら持ち出す骨は折れないが、實は友達の奴が熟く眠ッて居る所を、密ッと盜んで來た。一同呆れ返ッたが、十五兩はかりに購ッて遣ると、彼は頗る悦びました。杉君は彼に向ひ「どうだ、價を能く買ふから、大砲を二三門持ッて來ないか。と云ふと、彼は暫く考へて居たが「大砲は些と難い…併し持ッて來れたら持ッて來る、一人では迚もいけないから、五六人同志者を見附けて行れば善く行くかも知れない、一番骨折ッて見やう」と言ッて行ッたさうですが、是には一同大笑ひをして居ります。

さて籠城者は斯の如き有樣にて、日々唯救援軍の到着するのを待ッて居りますると、八月の一日に至ッて、張得林と云ふ支那兵が、福島少將の書を持ッて來て與れました、是は支那兵ではあるが能く道理の分ッた男で、一日も早く籠城者を救ひ出して了はなくてはいかん、若し北京に於て計外國人を虐殺にして了ふ樣な事があると、此の支那と云ふ國が如何なる目に遇ふか知れぬから、どうかして一日も速かに籠城者を救ふのが、詰り濟民の義であると、かう云ふ考へを持ッて居るノであッて、勿々感心な男であります。それで天津まで行ッて書を持ッて來て與れたのですが、此書に依ッて見ると、未だ救援軍は天津を出ないので、籠城者は大いに落膽しましたが、併し最う間もなく天津を出るであらうと、人々互に慰め合ッて居りますと、八月十日になッて、又た籠城者から出して遣ッた救民の使者が歸つて來て、救援軍が南蔡村まで參りましたと云ッて、又も一封の書を持ッて來ましたので、人々漸く安堵の思ひを致しましたが、此書に依ッて見ると、十三四日の頃には、必ず北京に達すると云ふ意味が書いてありまする、籠城婦人方は、男ノ人々から此事を聞いて大喜び「まア〳〵、安心致しました。それでは日の丸ノ旗を拵へて、救援軍の來た時は、日本人の籠城して居る所を知らせる爲に、其の旗を高く揭げる事にしませう」と婦人方は萬缺乏して居る中から、種々なる材料を集めて、國旗を拵へます。遂に救援軍は十四日の早朝から、北京城を攻擊して、遂に其夜の九時、朝陽、東直の兩門を破壞して、潮の如く突進した時、親王府内の樹木の上に、爛然として日章旗の輝いて居るのは、是ぞ籠城婦人方の、心を籠めて拵へられた國旗で在います、救援隊の人々も此の旗を見て喜び涙拵へた婦人方も是を見て、嬉し涙に咽びました。めでたし〳〵（完）

群馬會員　甲斐外枝子

郷濱子刀自をよめる

たまはりしいさをのしるしかゝやきて
人のかゝみとなりし君かな

同　埼玉　中川米子

君なくばわが日の本のをみなごは
かひなきものと世にやいはれむ

同　大分　藤崎ふさ子

たゝかひのちまたにいでしものゝふに
まさるいさをゝ立てし君かな

郷夫人の爲に天津居留地なる多くの御國人の救はれたるをよめる　山澤俊夫

かげひろき濱のひめ松なかりせば
八千草いかで野分しのがむ

奥村五百子てふ文字を冠らせてよめる

奥深く床しかり御國ノ爲身をも家をも思はざる君
村千鳥騷ぐ寒夜の寢覺にも誠を思はぬ時やなかりき
五十餘り九つの老し身の嶺越し山越し國に盡しぬ
百年々千年も命ながらへて御軍人をはげませよ君
子孫にも逢はて遺さむ國の爲西に東に暇なき身は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人傳

松尾多世子の傳

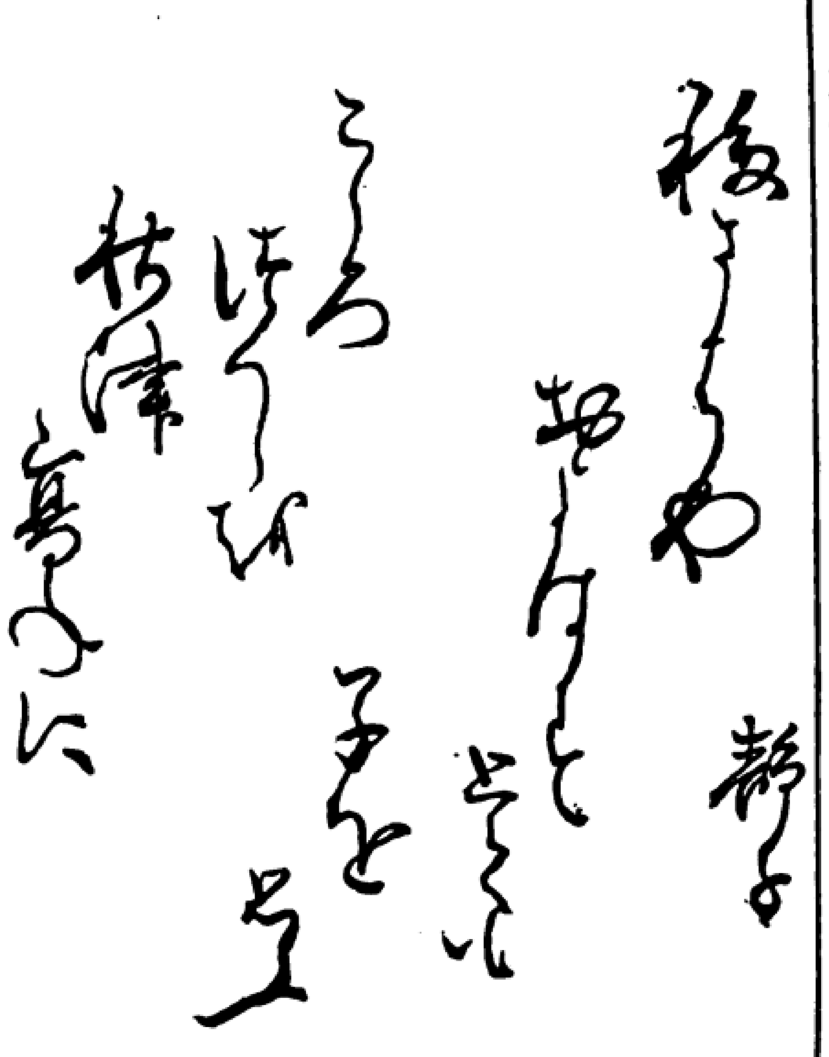
評議員　下田歌子

是時長州萩の城主毛利公、尊王攘夷の義を唱へて、京都に出で立ち在す、と聞き、是れに後れまゐらせじと、忍び〳〵に旅裝ひして、まづ我產神にまうでぬ。そのをり、

ちはやぶる、神にいのりて、旅衣、かへりこん日を契りつゝ行く。など思ひつゞけ、幣奉りて、皇運のいよゝ榮えまさらせ給はんことを默禱し、さて、木曾山の險阻にかゝりける時、立ち迷ふ浮雲の、いやが上に重りて、さらでも暗き木の下道、日も暮れあへぬに、忽ち、ぬば玉の闇となりぬる程、雷しきりに鳴りはためきて、大雨、さながら盆をかへすが如く、苔滑らかなるつゝら折の道、一步を過まれば、身は、直ちに、千尋の谷底に墮られぬべし。されど心剛なるたせ女は、更に怖るゝさまも無く、しとゞに濡れし袂をかいまくりて、

涙せく、旅ならなくに、今日はまた、かゝる雨にも、袖しぼりつゝ。と口ずさみなどして、美濃の國にいたりつき、長良川を渡るとて、ながらへて、またも越えなん、ながら川、濁らぬ水にこゝろまかせて。と打ちひとりごちつゝ京都に入りて、廣くさま〴〵の人々に交らひけり。

抑も、たせ女が、此度、斯く西上を企てたりしは、此頃、志士が、此所彼所に集りては、尊王の事を謀り、討幕の議を講じ、又は攘夷の策を廻らしなどするに當り、幕府が其密議隱謀を探知すると、甚だ嚴にしく、事未だ成らざるに、酷吏が無慘の手に捕へられては、能く正さるゝにも及ばずして、はかなく刑場の露と消ゆる人、また幾ばくと云ふ數を知らず。是れ其機密にあづかりて、各藩の諸志士等が間に、往復周旋する人、男子なればこそ、人の目にも立て、世の疑ひをも引け、女子なりしならんには、よも、彼等が耳目に觸るゝこともあらじ。されば、我れ、其れらの人に交はりて、能く密謀を助けなさましと思ひ定めたるなりとぞ。果して其希望に違はず、たせ女は、つねに公卿の館に伺候し、又は、四方勤王の士が隱れ家に出で入りして、能く、其籌策を補助しけり。是故に、有志等は、深くたせ女を德として、何くれの密事も、大方、これにぞ委ねたりける。さるからに、たせ女ある時は、田舍びたる農婦に身をやつして、庭園の草木に培ひ、又は、廻りの雜草を拔きなどして、下司男らの侮りを受けつゝ、よしなき雜談の尾につきて、巧みに、能く、敵中の機密を探り、あるは、賤しき物商人に出で立ちて、用心嚴しき、邸宅、城中に紛れ入り、價を廉にして、能く、下人等ハ甘心を買ひ、次第々々に、奥向の容子をも探偵して、早く、我が黨の人に告げぬ。また禁中の雜仕などやうの下婢となりては、敵の廻し者を追ひ捕へ、密かに告げも知らしなど、其功實に一つにして足らず。ことに其常時は四海やう〳〵波高うして、人の心荒びに荒びもて行く程なりしかば、其敵に對するは云ふも更にて、味方同志の中に在りても、ともすれば、激論の結果は、互ひに勝敗を太刀劒に訴へて、爭鬪忽ちに起るを常とせり。たせ女は、左樣の時に於ては、いつも、沈經劑となりて、双方を押し宥め、笑ひて、其無謀暴擧の大人げ無きを誨したりしかば、彼等は、つひに、柔の爲に、其剛を制せられつゝ、短慮を、たせ女に謝びたりきとぞ。



評議員　佐藤靜子筆

◎歐米の女子教育の現況

文學士　下田次郎述

此の一篇は女子高等師範學校教授下田次郎氏が、先頃文部省より女子教育取調の命を受け、數年間歐米各國を巡視して、此程歸朝せられ、特に本紙の爲めにものせられたるなり。氏は歸朝早々郷里に歸省されたるを以て筆記の校閲を經る暇なし誤りの責は記者にあり。

過般歸朝して未だ間もないことで、十分に調べて秩序の立ッたお話をすることは出來ませぬ。唯だ胸に浮ぶ儘をお話するに過ぎませぬが、先づ歐米の女子教育と生活とに就て申しませう。獨逸の女子教育は、他の事の進歩して居る割合には進歩して居らない。獨逸人の考は稍日本など同しやうに、女子は男子と同樣に働くべきものではなく、賢母良妻となッて家事を治めて愉快なる生活を營むが本分であると云ふのが、大體の傾向でござります。之れに反して獨逸は、社會主義の盛な所であるから、何事にも女子の運動があり、從ッて政治上に於ても、女子は男子と同等の權利を得たいと、主張して居る者もあります。しかし是れはまだ成効は致しませぬ。女子の初等教育は、日本と餘り大した違ひはありませぬ、其の違ふのは高等女學校が──六歳から九年乃至十年あるのですから、殆ど日本で言ふと初等小學と高等と合せたやうなものであります。ソレて補習科と云ふものがある。其他に又パンジヲンと云ふものがあッて、是れは補習科の濟んだお孃さん方が、社會に出る用意と又趣味の教育即ち音樂であるとか、畫であるとか云ふものを、私塾の樣な處に這入ッて勉強しながら生活して居るのであります。ソレで時々會などへ出て、若い人と出遇ッて、他日の良人を擇ぶと云ふやうな事もあるのであります。此のパンジヲンと云ふものは佛蘭西が本で、獨逸にも所々にあります。次にギムナシューム（高等學校）と云うて、女子が男子と同じく希臘、羅馬の學問などを習ッて居る者もあるが、是れは生徒も少なく繁昌致しませぬ。ソレから大學であるが、大學には女子の入學を許す處と許さぬ所とある、又ドクトルの學位を與へる所と與へないとある。女子教員の養成法と云ふものは、多くは高等女學校に女子師範學校が附屬して居ります、ソレも澤山はありませぬ。其他に大學の方で授業して、ソレから又教員の方になるのもあります、併し女子高等師範と云ふ樣なものは一つもありませぬ。先づ以上が獨逸の女子教育といふもの丶、大體でございます。婦人の生活と云ふ方は、家の内に居て家事を專らにすると云ふ風でありますから、編物などを澤山に遣ッて居る。細君などは話しに往ッても、その話の間に編物をして居ると云ふ風である、殊にミュンプルグと云ふ處に往ッて見ると、公園のベンチに腰を掛けて編物をして居るのを多く見かけます。さうして比較的に男は女に對して命令的であり、妻は良人に對して從順であると認められます。佛蘭西に至りますと、佛蘭西にはイッセと云つて、高等女學校に相當したものがあります、是れは、公立の學校であります、其外私立の宗教主義の學校が澤山ありまして、良家の子女は此の私立學校に這入ッて、尼さんのやうな嚴格の生活を致しまして、學校を出るまでは容易に外にも出ることは出來ませぬ、男は參觀に往くことも出來ませぬ、女が行くにしても種々の條件が必要であッて、なか〳〵堅いものである、そう云ふ學校に這入ッて、其處を卒業すると、社會に出さるゝのでありますから、學校に於けると、社會に出ての境遇の衝突と云ふものが、往々あッて、折々間違ひもあるやうに聽きました。ソレから巴里では大學を初め高等の學校には、多くは教授の講義を公開して、誰でも聽きに行かれるのでありますから、ソルボンの大學の如きも、女の講聽者が澤山ありまして毎日數百人づゝ參つて居ります。元來佛蘭西は美術國でありますが、巴里に於ても、女子の職業學校には隨分見るべきものがあります、裁縫の如き、刺繡の如き實に立派なるものが出來る、さう云ふのが澤山ある、且つ巴里は概して、風儀の宜しからぬ所ではあるが、良家の子女は、非常に監督が嚴密でありまして、學校の往復に、保姆若しくは下婢が、門前まで、送り迎へをして居ります。佛蘭西に於ては、昔から女の教育者として、名ある人が隨分出たので、外國にまでも佛蘭西の女が雇はれ居る次第であります、尋常師範學校と高等師範學校が、男女共にあります、殊に高等師範學校は、中等教育の教員を養成するのと、初等師範學校の教師を養成するやうに二つに別れて居ります。フォントテー、ヲー、ローヅとセーブルの二つにあります、各々生徒が五六十人を出てませぬ、而して一体に學校の風が家庭的であッて、少人數が仲間になッて、アチコチに室を持ッて居ります、一室に澤山の人を推し籠めて、教育すると云ふやうなことはございませぬ。

（未完）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家政

◎家政要領

家庭教育（つゞき）

一 童話は兒童を樂しましめながら、其の智德を啓發する上に大に益ありて、家庭教育上極めて必要のものなり。然しながら、童話の選擇に注意せざるべからず。

一 怪異の話、殘酷殺伐なる話、下卑たる話、猥褻なる話は避けざるべからず。又兒童の理解力發達の程度に應じたる話ならざるべからず。

一 勸善懲惡的の話は、固より上乘なれども、さなくとも、無害にして面白き話ならば、教育上亦有益なり。

一 兒童の理解力稍發達したるには、動植鑛物の説明及び歷史傳記の物語亦有益なり。

一 玩具も亦兒童を樂しましめながら、五官の作用を啓發し、手指の使用に練れしめ、思想の發動を誘ふものなり。是れまた其選擇に深く心すべし。

一 玩具は其形狀の整ひたる、彩色の調和せる、音響の野卑ならざるものを良しとす。有毒の繪具を用ひたる物、及び硝子、鐵線などにて作り、手足を傷つくる虞ある玩具は、決して之を與ふべからず。

一 兒童の發達に伴ひて、變化ある玩具を選びて與へざれば其用を爲さず、然しながら、精好にして高價なる物を要せず、殊に餘り澤山に與ふる時は、兒童に奢侈の心を生ぜしむべし。

一 玩具は兒童自ら出納し、秩序を整頓するの習慣を附する樣に注意すべし。亂雜破放に流れしむべからず。されば玩具を容るべき器も亦、適當なるものを與へざるべからず。極めて幼稚なる者には、旅の內外を紙にて貼りたる物など、危險の虞なくして最もよし。

一 普通坊間に鬻ぐ處の玩具は、教育上適當なるもの少なし。フレベル氏の研究に成れる、幼稚園恩物を以て最も有益なる玩具とす。

◎家計收支の實況（其八）

愛知縣三河國豐橋町　愛讀者報知

御恥しく候へども十一月分家計收支御目にかけ候まゝ、何卒御批評の義願上參らせ候

一家族　夫婦　哺乳兒　下女　都合四人
一收入金四拾八圓　一ヶ月分俸給
一支出金參拾八圓貳拾錢

差引殘金九圓八拾錢銀行に預金す

內譯

五圓	家賃	四圓五十錢	米代
貳圓貳拾七錢	薪炭石油	壹圓壹拾貳錢	肉類鷄卵
壹圓七拾參錢	野菜乾物類	八拾參錢	菓子茶
壹圓五拾六錢	味噌醬油砂糖	六拾五錢	酒代
壹圓六拾八錢	新聞雜誌書籍	壹圓五拾錢	下女給金
壹圓貳拾五錢	保險	貳圓參拾四錢	交際費及郵便
四圓七拾貳錢	被服（ヅボン、小兒羽織）	壹圓〇五錢	[illegible]代
壹圓拾八錢	主人小使（煙草、散髮其他）		
九拾四錢	主婦小使	壹圓六拾八錢	雜費

評　國民が勤儉でも、政府が奢侈道樂であつては、國の富は望まれないのと同樣に、主婦が儉約しても、家長たる人が顧みざるならば、家計の困難は決して免れない。此家計費目中主人小使の少額なるは夫婦心を合して、勤儉を勵まるゝ、證據で、其家庭の和樂察しべきである。思ふに家計收支を報知せらるゝ方々の家庭は、孰れも比較的整理せるものであらう、普通の家庭では、家長の濫費非常に多く、從ひ收支の勘定は人に見せられないであらう。

◎奥村刀自長野新潟地方遊說日記

十一月十一日　三條町出發西蒲原郡卷町に至り本派妙光寺に投じ午后一時より同寺に於て開會す。聽衆七百餘名。郡長金子長作本會幹事金子きい子同星井みち子會員高橋貞子其他數名大に盡力せられ、即時多數の入會者ありき。三時半閉會す。

同　十二日　同寺を發し三島郡與板町に至り、大谷派恩行寺に投し、午後二時より同町曹洞宗德昌寺に於て開會す。郡長神谷豊氏本會幹事三輪刀自子及び有志數名盡力せられ、聽衆凡五百名。殊に郡長の依賴により同町綿ネル製造所女工四十餘名來會せり、即時數十名の入會者ありき。

同　十三日　午前八時半同町を發し長岡町に至り大谷派妙宗寺に投じ、午後一時半より三時間同寺に於て演說す、聽衆貳千五百餘名其九分は婦人にして縣下遊說中未曾有の盛況なりき。即時七十餘名の入會者あり、尚申込書を請求し來るもの數百名に及べり、是れ全く同郡長阿部牧氏並に慈善婦人會、北越佛教婦人會、長岡佛教婦人會女子教育會の各團體職員諸氏の大に盡力ありし結果なり。尚當支部長よりの報告によれば、今日迄に會員數千餘名に達したる趣なり。

同　十四日　午前九時より十一時半迄長岡町なる女子師範學校に於て、同校生徒、同校附屬小學高等科生徒、長岡女學校生徒、長岡町立の各高等小學二年級以上の女生徒其他男女有志台計約八百名に對し演說す。同校女教員は悉く入會せられ、閉會後生徒の調理せし膳部にて一行に午餐を供せられたり。同校長川面氏は嘗て廣島地方遊說の際面識あり、將來大に盡力すべき旨語られたり。歸宿後郡役所より長岡町井上佐太郎氏が金五拾圓を寄附せられたる旨を通知し來れり、其篤志眞に感ずるに餘あり。此夜阿部古志郡長來訪、同郡にて五百名以上の會員を必ず募集すべき旨を保證せられたり。

同　十五日　午前九時四十分發車柏崎町大谷派勝願寺に投じ、午後二時より同町尋常小學校に於て各校女生徒其他有志男女七百餘名に對し演說す、石澤刈羽郡長、本會幹事一同並に勝願寺住職大藤巖舟氏等の盡力により、開會前續々入會者あり。會後凡百名の入會者ありき。

同　十六日　同町淨興寺に於て演說す、聽衆凡そ二千五百餘人にて多數の入會者ありき。本會幹事山川米子非常に盡力せられたり、此夜同寺に泊す。

同　十七日　同町を發し直江津に至り、大谷派林正寺に於て演說す、中頸城郡役所より書記二名を派し外に町長田邊五郎氏及び有志家大に盡力せられたり。聽衆凡そ六百名なりき。閉會後不快の爲め凡て面會を謝絕して休養したり。

同　十八日　直江津を發し高田町に向ふ、然るに柏崎町の川田石澤近藤の各幹事諸氏は病躰を配慮せられ、片桐妙源と云ふ尼を看護のため遣はされたるを以て、同乘して同町大谷派本誓寺に投じ、午后一時三十分より同寺に於て開會す。聽衆は高田高等女學校師範學校附屬小學女生徒高陽女學校生徒並に各宗僧侶等約二千五百餘名にて數十名の入會者ありき。

同　十九日　午後同町を發し新井町大谷派別院に投じ、同院內にて開會す。聽衆約七百名にして拾數名の入會者ありき。

同　二十日　新井町を發し長野縣中野町に向ふ、新潟縣巡遊中終始隨行幹旋せられたる秋山縣屬並に近藤中頸城郡書記の二氏は豐野驛迄見送られたり。同驛には本會幹事近山まん子中野婦人會幹事黑岩いき子出迎はれ、下高井郡小野町は宅り、荒川郡視學及近山幹事夫妻の幹旋にて同町尋常小學校內にて開會す、來會者約五百名即時拾壹名の入會者ありき。

同　廿一日　午前九時同町を發す、近山幹事荒川郡視學及び女教員一名町外一里半計の處まで見送られたり。小布施村に至れば本會幹事伊藤さい子同牧しげ子同郡書記駒澤の三氏出迎はれ、其案內にて須坂町に着し浦野安井氏宅に投ず。次て同町尋常小學校に開會す幹事伊藤郡長夫人紹介の勞を取られ來會者三百餘名即時數十名の入會者ありき。今回巡遊以來婦人の紹介せられたるは今回を以て嚆矢とす。

同　廿二日　午前須坂町を發し埴科郡松代町に向ひ、駒澤上高井郡書記及佐藤縣屬同行、午前十一時半松代町に着し松代小學校にて開會す、聽衆三百餘名即時入會者若干名あり（此日眞田伯爵家令出迎として二里半餘の篠ノ井驛停車場迄人車三臺を以て出迎はれたりしも、交部より順路變更の通知なかりし爲め、手違を生じて同町有志家の好意を空くしたるは遺憾なりき。）當郡は濱郡長熱心に本會の爲に盡さるゝのみならず、幹事眞田寿子氏の幹旋の結果同町會員は五拾餘名に達せり。此日同幹事の宅に一宿す

同　廿三日　午前十時松代町を發し更級郡鹽崎村に向ふ、同郡有志代議士房子松代迄出迎はれ眞山幹事も見送りとして同道同十一時四拾分鹽崎村に着し、更級小學校にて開會す、聽衆二百餘名此日色部郡長、郡議員出張せられ入會者三十餘名を紹介せられたり。午後七時出發稻荷山驛より乘車同十時前松本驛に着し同町秀蜂館に一泊す。

同　廿四日　東筑摩郡長より案內者として金井郡書記を隨行せしめられ、（佐藤縣屬は稻荷山驛より歸縣す）同郡鹽尻町に至れば諏訪郡より宮下郡視學出迎として出張あり、其案內にて同郡上諏訪町に至り、淨土宗正願寺に宿泊す。

同　廿五日　午前には土地の有志家數拾名來訪あり、午後一時半より同町小學校にて開會す。聽衆千餘名即時入會者百三十名ありき。

正誤　本紙第十七號遊說日記中、小野伊曾子氏を陸軍中尉未亡人としたるは陸軍步兵少佐小野寅勳八未亡人の誤に付き訂正す

私事當年末迄四國地方を遊說し、それより引續き九州各地巡回の都合につき間暇を得ず候まゝ、歲末年始の禮を缺き申候、此段不惡御垂諒を請ふ。

明治三十五年十二月　在香川縣　奥村五百子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎愛國婦人會記事

●評議員會　本月は既に年末となりしを以て、十二月十日の第二の組評議會を以て本年の納會とし明年一月十四日の第二水曜日には別項の如く評議員總會を開き同廿一日の第三水曜日を以て前年に引續き第三の組より開會の筈なり。其日割左の如し。

一月廿一日（第三水曜日）第三の組
一月廿八日（第四水曜日）第四の組

●新年の評議員總會　明年一月十四日午後一時より九段坂上偕行社に於いて評議員總會及び東京府幹事總會を開き、會長、理事、幹事長、評議員、幹事諸氏一堂に集り、兼て年始互禮會を開く都合なり。

●年末の評議員總會　本月九日午後一時九段なる偕行社に開きたり。出席者は會長岩倉公爵夫人を始め近衛毛利一條鍋島谷の各理事及評議員三十一名にして來年度の會計豫算を始め諸般の會務につき審議し、了りて一同撮影、後會長より贈られたる茶菓の饗應を受け午後四時頃散會せり。

◎明治三十六年上半期經常豫算調書

一金八百八拾五圓
　内譯
金百六拾五圓　借家料
（但し一ヶ月貳拾七圓五拾錢）
金貳百九拾七圓　給料
　内
金七拾八圓　事務員一名給料（六ヶ月）一ヶ月拾參圓
金六拾圓　仝　一名仝上　一ヶ月拾圓
金五拾四圓　仝　一名仝上　一ヶ月九圓
金六拾圓　筆耕　一名仝上　一ヶ月拾圓
金四拾貳圓　小使　一名仝上　一ヶ月七圓
金參圓　日本體育會小使へ手當六ヶ月分
備考　三十五年後半期豫算高に對し、金六拾六圓を増加す、其理由は本會の擴張と共に事務繁忙となれるを以て、事務員一名を増加したると事務員の手當を壹圓乃至五拾錢づゝ増給し、且つ本會事務所は宿直員を置かざるため、夜間日本體育會小使を使用するを以て、之れが手當を支給するに依れり、
金貳拾四圓　器具費
但し備品の購買、及破損物の修理費（月額金四圓）
備考　三十五年後半期豫算額と同し
金七拾貳圓　紙筆墨費（月額金拾貳圓）
備考　仝上
金參拾六圓　雜費
但し炭、瓦斯、茶其他雜品代（月額金六圓）
備考　三十年後半期豫算額より金六圓を増加したるは前半期は後半期より多く炭代を要するを以てなり、
金百八圓　郵便電信料（月額拾八圓）
備考　三十五年後半期豫算高に比し、金拾貳圓を減したるは同期中の實驗に依れり、
金百五拾圓　車代
　内
金九拾圓　奥村五百子車代（月額金拾五圓）
金六拾圓　事務用乘車代（月額金拾圓）
備考　三十五年後半期豫算高に同し。
金參拾參圓　電話使用料（月額金五圓五拾錢）
説明　給料と雜費は三十五年後半期豫算額より増加し、郵便電信料は同期より減少し、其他前期に異らざるは各項説明の如し、而して本期は別に電話使用料を加へたるを以て、彼是差引を爲し總計金六拾參圓の増額となれり

（參考）
明治三十五年下半期經常費豫算額と支拂額との對照表
（七月より十月迄は實費十一月、十二月は豫算額を以て算出す）

科目	豫算額	實費金額	差引増減	備考
家賃料	一六五、〇〇〇	一六五、〇〇〇		
給料	二三一、〇〇〇	二六二、一七五	三一、一七五増	本費目の増加したるは東京府幹事部へ名簿を交付する爲め筆工を雇入れたると、體育會小使の手當を本科目中より支出したるに由れり、
紙筆墨費	七二、〇〇〇	七一、八一六	〇、一八四減	本費目の多からざりしは、下半期は暑中休暇のため、各支部と、往復頻繁ならざるによる
雜費	三〇、〇〇〇	二一、八五〇	八、一五〇減	
郵便電信料	一二〇、〇〇〇	八九、六〇〇	三〇、四〇〇減	
器具費	二四、〇〇〇	三三、九四〇	九、九四〇増	本費目の増加せしは、徽章名簿職員證のため、[illegible]帳を新調したるに由る、
車代	一五〇、〇〇〇	一四八、四五〇	一、五五〇減	本項は奥村氏八月分の車代を領收せられざるにより、豫算額を以て支辨し得ると雖も、若し奥村氏に車代を渡すときは、實に拾參圓四拾三錢の不足となる割合なり、但し車代の多かりしは後半期に於て六月分の車代八圓拾五錢を支拂たると奥村出張のため事務員の奔走多かりしとに依る、
計	八三一、〇〇〇	八二一、八二〇	一〇、一八〇減	

◎明治三十六年臨時費支出豫算調書

一金六千四百六拾圓六拾錢
　内譯
金六百四圓六拾錢　印刷費
　内
金百貳拾圓　趣意書六万枚
金參百四拾五圓　規則書五万部
金參拾九圓六拾錢　申込用紙六万枚
金百圓　臨時印刷物
備考　印刷物は三十六年の入會者を五万人と見積り、而して趣意書申込書の如きは、會員勸誘のため配布するものに付、多數を要し、又臨時印刷物は大會の爲要するもの、及び會計報告用等の準備なり、
金四千七百七拾九圓　徽章製作費
　内
金八拾圓　有功章貳百個
金千圓　特別徽章一万個
金參千六百圓　通常徽章四万個
金百貳拾九圓　贊助章三千個
備考　以上は三十六年の入會者を五万人とし、外に有功章贊助章員を見積り算出せしものとす、
金參百拾貳圓　運送費
　内
金參百拾貳圓　徽章趣意書等運搬料
金七百圓　擴張費
備考　前年度の豫算高に依れり
　内
金七百圓　地方巡回演説其他本會擴張に係る一切の費用
備考　本會を隆盛ならしめんとするは、最も地方出張等の必要あり、故に前年度の豫算より金七拾圓を増加せり
金六拾五圓　電話購買費
　内
金五拾圓　電話購買料
金拾五圓　仝　架設費
備考　主事宅に架設するものにして、畢竟事務所との便及び其他の便を得んが爲なり、而して後日、本部新築の節は本部用となすものなり、

（參考）
明治卅五年臨時費豫算額と支拂額との對照表
（一月以降十月までは實費十一月、十二月は實費の月割を以て算出す）

科目	豫算高	實費金額	差引増減
印刷費	一、四四〇、〇〇〇	六四八、二六〇	七九一、七四〇減
徽章製造費	五、五二五、八〇〇	四、一三六、七〇〇	一、三八九、一〇〇減
運送費	三二〇、〇〇〇	二三五、九二五	八四、〇七五減
擴張費	六五五、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇	二五五、〇〇〇減
計	七、九四〇、八〇〇	五、四二〇、八八五	二、五一九、九一五減

●東京府支部幹事會　去にし十一日午後一時より九段坂上偕行社に於て、東京府下の支部幹事會を開けり。來會者は支部幹事長千家男爵夫人を始め、評議員兼幹事麻生肇子、南郷柳子、中山幸子、濱尾作子、仁杉歌子、佐藤靜子、佐藤猶子の諸氏、及渡邊いぬ子、齋藤せん子、保利ひさ子、進利子、谷森みや子、濱田すて子、宇津木ひろ子、長谷川さい子、田中とみ子、吉井嵩子、大住りつ子、花岡きぬ子、田村彰子、牧田ます子、宮本らく子、小池みつ子の諸氏出席の上左の覺書に對し幹事長の説明あり、夫れより子爵小笠原長生氏の歐洲に於ける婦人會及婦人の有樣に付いて有益なる演説あり、了つて庭内に於て一同撮影し、再び座に着き、千家幹事長より寄贈にかゝる茶菓の饗應を受け、午後四時頃散會せり。

○明治三十五年十二月十日東京支部幹事會に於て申合たる覺書

一、金五拾圓以上寄附したるものは、有功章を贈與さるゝ規則、随て特別會員以上の資格なれば、無論會費は取立てざる事。
二、會費は半季即ち七月一日前後の入會に依て、取立方を異にす例へば前半季中の入會者は其年の全額、後半季中の入會者は其年は半額の會費を納むるものなり。
三、會費は前半季は五月六月、後半季は十一月十二月の間に集金し、集金了れば直に幹事長へ納むものなり。但し前半季に於ては、可成一年の全額を納めしむるを可とす。
四、區内幹事中一名の專任者ありて、其區内の集金幷に入會者の取扱をなす、之を一箇年持となす事。但し申合の都合に依りて幾年繼續するも無論る差支へなし。
五、專任幹事は受領證の番號、幷に割印捺印に注意する事。
六、幹事は其區内に於ける戰死軍人遺族、幷に癈人の生活程度を調査し、規則通り十二月迄に幹事長に申告する事。
但し此件は專ら其區長に依頼する事。
七、區内に本會評議員あれば、幹事の事務に付協議又は援助を乞ふは無論妨けなき事。
八、區内に於て、男女に拘らず本會の爲に盡力し、幹事の事務を援助し呉れらるゝものあれば、幹事長へ申告あるべし。
九、幹事は入會者の紹介を勉められたく、其入會者を紹介したるときは、入會申込書の紹介人姓名の處へ、落ちなく記入ありたし。
十、「愛國婦人」は本會の機關新聞にて、幹事長は勿論幹事の業務に關する事を該紙「愛國婦人會記事」欄内に掲載しあるを以て注意一讀ありたし。
十一、「愛國婦人」は本會の機關紙にて、家庭に貞淑の美風を啓沃し以て一般の尚武心を興さしむる主意に付機に應し一般會員へ購讀方を勸誘ありたし。
十二、三十六年の幹事會は一月十日過初會を開く、之を以て會長理事、幹事長評議員、幹事に對する相互年首の禮を兼ぬることゝす。

●奥村刀自　去にし十日新橋發香川縣支部發會式に臨場の爲め同地に出張せるが、途中名古屋支部の幹事總會に臨席し、本月未迄四國各地を遊説し、夫れより一先づ郷里に歸り、新年を迎へたる上一月中は九州各地を遊説する都合なり。

●本會主事囑托　後備步兵中佐松原晙三郎氏は此程本會主事を囑托せられたり。

●名古屋支部幹事總會　去にし十一日午後二時同地赤十字社支部内に於て開會、新任幹事長深野知事夫人を始め各幹事十一名集會、本部よりは奥村刀自臨席し事務員を置くこと及び會費募集方法につき協議をなし了つて一同撮影し、午後五時散會せり。

●大坂府支部幹事氏名（承前）

橋川誠順長女　橋川サカヘ子
坂川耘平夫人　阪田淼子
勝田忠一祖母　勝山タメ子
砂金嶋山母堂　砂金フサ子
高井幸三妹　高井ミチ子
森脇誠一母堂　森脇梅野子
齋藤研一夫人　齋藤ムラ子
平池未亡人　平池イツ子
植山未亡人　植山アイ子
三田智閑夫人　三田カン子
能受小八郎夫人　能受フサ子
岡山八右衛門夫人　岡田ミツ子
深瀬和直夫人　深瀬千世子
岡山壽一郎夫人　岡田仙子
太田亮三郎夫人　太田シゲ子
杉山剛郎夫人　杉山榮子
中村直賢夫人　中村芳子
南坊城良興夫人　南坊城麻子
松村秀眞夫人　松村キカ子
長崎司馬太郎夫人　長崎錢代子
山澤保太郎夫人　山澤ウノ子
岩崎安治郎夫人　岩崎胤子
久保田眞兵夫人　久保田キク子
大堀又三郎夫人　大堀エミ子
小河忠夫夫人　小河幸子
外山忠三夫人　外山フク子
兒山養守夫人　兒山里枝子
辻林欽逸郎夫人　辻林林乃子
藤本利一郎夫人　藤本たつ子
相場駒次夫人　相場ツキ子
川井氏巳夫人　川井ユキ子
片山臣愼夫人　片山サノ子
山崎忠純夫人　山崎クマ子
井上保次郎夫人　井上幾子
藤又兵衛夫人　藤ひろ子
村山龍平夫人　村山マス子
山口善三郎夫人　山口フミ子
鴻池新十郎夫人　鴻池サチ子
吉田顯三夫人　吉田桂子
平賀敏夫人　平賀ミツ子
伊藤憲一郎夫人　伊藤モト子
益田信三郎夫人　益田靜子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎愛國婦人會々員勸誘日記の一節（其四）

三重縣　桑名町　會員某

謝して家を出でしは一時五十分、わらはは父を案じ、父はわらはを勞はり給ひて、互に言葉を添へつ、行くと八町斗り、源鎌新田白木唯四郎氏に至り、刺を通ずれば令閨出で丶迎へらる。雨を冒かして父子伴うて訪問ひしかば驚きたまひてか、さても如何にし、來給ひしぞ、まづ通らせたまへとて、懇懃に茶菓を饗し、慰め給へり。乃ち來意の要を告ぐれば、令閨曰はく、生憎主人は病床に臥せり、失禮不悪承知せられよ、且愛國婦人會趣意は勿體に喜ぶ處、剩へ貴家よりの勸誘なれば、直ちに諾すべしとて、即ち白木唯四郎妻うらと記名せられたり。降雨益烈しく暫く憩へよと強て留め給ひしかど、急げばとて、二時五十五分仝家を辭し、行程五丁斗り、源鎌新田白木興弓氏を訪ひ、刺を通ずれば主人不在なりとて、令閨迎へらる。來意を告ぐれば應へて曰はく、主人曾て貴書を一見し是非入會すべしと申置かれしを以て、即ち加入すべしと、直ちに諾して白木興弓妻かひと記名せられたり。時に午後三時半雨はなほやまず、父子ハ困難察したまひてか、苦しからずば一泊せよと、強て勸めたまひしかど、固く辭して仝家を出て、道を還し、急ぎ歸路を辿れば、愈泥濘雨水深くして、實に危險也。父上お氣をお付けなさいませと云ひ續けつ丶殆んど一里も還りし頃、父は疲れたまひしや。足の運びも愈危く前きの勇氣もいつしか失せて、車もあらば、乘らましものを、不便の土地よと、再三憩はせ給へり。あはれ傘なかりせば、わらは負ひても歸らんものをと、心々碎き、坐ろ涙を催して慰めく、未だ日は暮れず、急がせ給ふなよと、心は父の身に添ひて、己が疲れも打忘れ、漸く西對海地新田迄戻りしが、畦道とて細き板橋山形にして架しあれば、危き此橋、父上お氣をお付なさいませ、私まづ御案内致させうと云ひつ丶、徐々渡り了らんとするとき、馴れぬ道とて、辷り轉びし時の不體裁、思はず顔を赧らめたり。父や如何に驚き給ひけん、されど父にてあらざりしとの幸せよと思へば嬉しく、漸にして東對海地新田に來りし頃は正に六時四十分大橋六兵衛氏を訪へば、わらはが同窓の友は出で丶迎へらる。仝家の主人亦父と親み深しき、即諾、大橋六兵衛女しんと記名せられたり。雜談交々、日は全く暮れ丶雨はやまず、姉の夫案じて迎ひに來れりとて、偶然大橋家に會し、即ち仝行三人前後に父を保護して宿に歸り、餐を喫し、浴を終り、寢に就しは午後十一時半なりき。

◎婦人論梗概

●渡邊國武子の「婦人に對する求」　女子教育に於て、往々女子の獨立を說くものあるは甚しきものなり。女子の獨立は人倫の變態のみ、男女相合するは自然の理にして、事情あるもの丶外は一般の女子教育は良妻賢母を造るを以て一大目的となさゞるべからず。良妻賢母を作るには女子の品性を陶冶する事を先づ第一に務めざるべからず。品性の陶冶だに行き屆かば、男女の關係も家庭の調和も圓滿に得らるべし。又風俗改良に於ては第一に男女の關係、家庭の組織より其端を開くべし。今日に於ては婦人は常に抑壓の下にありて、些の自由なし、是れ抑も非なり、故に先づ婦人の品性を陶冶して其地位を進め、其自由を進めざるべからず。次に家庭に於ては夫婦互に朋友を以て待ち、相敬愛せざるべからず。要するに女子の獨立說は飽くまで戒めざるべからず。男と云ひ女と云ふ、本と半性のみ、相合するは本然ならずや。若し歐米婦人の中より模範的婦人を求めんか、各一長一短あれども先づ英國婦人なるべし。然れども家政經濟殊に手藝の巧妙なるは獨逸婦人を最とす、故に英國婦人に獨逸婦人の一部を加味せば或は模範的婦人を得べけんか。（婦人界）

●宮田修氏の「所謂女子教育者を難ず」　女學生間の問題に關する新聞の記事は左程に教育界に重きを置くに足らざるに拘はらず、現代の女子教育家が之に誤られて、其家の子女を都會に送るを非難するが如きは、婦人を以て全く自治的精神なきものと認めたる論にして採るに足らず、殊に該問題の生じたる以後は、各女學校の取締頗る嚴格となり、或る學校の如きは婦人に全く自由を與へず、音信の開封、外出の制限、面會人の謝絕となり全く監禁主義に傾くに至れり、夫れがため二三の女學生は其學校の束縛を憤慨し、退校せるものあるに至れりと云ふ。如此は果して女子教育の本旨なるや、元來日本の女子はさらぬだに古來より家內に抑壓せられたる結果、自治獨立の氣象に乏しく、他に依賴するの傾きあり、然るを文運の盛んなる今日に於て、その自由意思を束縛し、専ら他人の制馭の下に置くは、女性の人權を無視せるものにして、其結果終生自主獨立の實を得る事能はざるべし、よし學校在學の間は如此監督の下に無事の歲月を送る事を得るとするも、學校生活を去り社會に出でし時は、恰も温室の植物が嚴霜に堪へ得ざるが如く、萎靡して其用を爲す能はざるべし、元來女子訓育の第一義は外部より攻むるにあらずして、內部より鍛ふるにあり、外部に自由を與ふるも、內部精神の教養に鍛錬を加ふるによりて其目的を達するに在り。然らば今日の監禁主義の教養は、決して花の精髓を培養するの道にあらざるなり。云々（教育學術界）

●女子の友記者の「女子に海的思想の必要」　我國古來の風習は陸的文學を重んじ、女子は温順柔和にして常に戶外に出づるをだ拒みたる有樣にして、其思想も自から雄健壯大の點に乏しく、只山川草木を歌ひ花鳥風月を吟ずるが如きのみにて、其限りは殊に狹し。之に反して海的思想は壯濶のものにして、大洋の海面は渺茫として際限なく、變化窮りなし、我國の如く四面海洋を以て圍繞せらる丶國に於ては、夙に婦人に於ても海的思想の盛んなるべきに、此事なきは頗る遺憾とする處なれば、今日以後の婦人は須く海的思想を養ひ、子女教育の資に供すべし。

◎雜報

●東京音樂學校の生徒募集　同校は明治三十六年四月入學せしむべき甲種師範科生徒若干人を募集する由にて、入學志願の者は入學願書、履歷書及戶籍謄本を添へ、同二月十六日迄に願出づべしとなり。尙ほ其資格は、男女を問はず品行方正年齡滿十七年以上にして、師範學校中學校、若くは修業年限四ヶ年以上の高等女學校卒業生にして、入學試驗科目中一號の試驗に合格したるもの、又は第一號及第二號の諸學科に就き試驗の上、之と同等以上の學力ありと認むる者なりと云ふ。其入學試驗科目は左の如し。

第一號　唱歌、試問、國語若くは英語、體操、

但し國語若くは英語は受驗者をして一科を選擇せしむ

第二號　國語（讀方、作文）、數學、理科、地理、歷史

入學試驗に合格したる者は三ヶ月間假入學とし其性行及學業を考察して本入學を許し、生徒には官費又は私費とし授業料を免除し、尚ほ樂器を貸し、官費生には學資として一箇月金六圓乃至八圓を支給するよし。入學試驗は明年二月二十二日より施行の筈。願書履歷書の書式は十二月十二日の官報に掲載なり。又昨年に於ける同校生徒募集の景況を聞くに、應募者は各府縣を通じて三十二名に及びたるが、多くは第一號の受驗者にして、試驗の結果男生徒十六名女生徒一四名合計三十名入學許可を得たり其中、四名を除く外悉く官費生にして每月金七圓づ丶の支給を受くるよし。同科の修業年限は三年にして修業の上は音樂科は勿論國文科なども併せて修學せし者には、兩科の免狀を與へ、高等女學校及師範學校の教諭となるの資格を與ふる由なり。入學試驗の際、最も重きを置くは唱歌の科目にして、試驗の場所は東京なりと云ふ。

●女學校の豫算　今回議會へ提出したる官立學校の豫算中には、女子高等師範學校拾万百八拾四圓內政府支出金八万四千余圓、雜收入一萬九千余圓、東京音樂學校四萬六千四百九拾八圓內政府支出金二万六千餘圓、雜收入五千余圓なり。

●京都府立高等女學校　同校は昨年十二月學則を改正し教科は本科、補習科、専攻科、技藝科の四種とし、生徒の定員は八百名の由にて、現在職員は男子十一名、女子三十八名合計四十九名なり。而して、生徒現在數各科通じて四百九十九名にして同校の經費は年々增加し、本年度の分は臨時費を除き金貳万千四百五拾七圓余なり。從て教授上の設備も年々完全の域に進み、頗る盛大なりと云ふ。

●普連土學校の全燒　去る十四日午前八時頃芝區三田綱坂上なる普連土女學校寄宿舍樓上煖爐のパイプより出火し、折柄の强風に加ふるに名に負ふ高臺の事とて、火の手は樓上一面に廣がり、消火栓蒸氣喞筒の消防、手に手を盡せしも足場悪しき爲め困難一方ならず、九時過まで鎭火せず、同校全燒せり、いたましき限りにこそ。

●山口高等女學校　同校建築費につき、縣會紛擾せしが、折衷派の調停する所となり、其の結果山口女學校費及三田尻鎭西女學校費二ヶ年繼續支出に可決せしよし。

●慈善新年會　歐洲各國特に英國に在ては、貴婦人社會に於て貧民を饗應する事一種の流行ともなり居る有樣にて、貧民饗應の節は、貴婦人自から其席に臨み、萬事を斡旋して貧民を慰むるを以て唯一の樂みとなし、且つ之によりて幾分か社會の貧富懸隔を融和するの効果を收むるとぞ。日本に於ては、從來かゝる催しなく、天災等の場合に醵出しなるもの多く、罹災民を救恤する位の事なりしが、先年來慈善旅行を催し、慈善界に一新機軸を開きし時事新報社に於ては、今回表題の如き慈善會を催す事を發企せり。此趣向は來年一月三日を卜し、神田なる錦輝館に於て細民の子女約一千人を集め、雜貨を與へ細民を饗應するの目的にて、東京婦人會員潮田千勢子氏專ら周旋盡力せらる丶趣きなり。

●慈善家彰善會　茨城縣北相馬郡北文間に於て先頃假總コト子の彰善する催し東京よりも潮田千勢子嬢々臨席あり。來會者四百餘名にていと盛會なりしよし。コト子は本姓を岡皆といひ舊藩時代には兩刑駿河守の邸に仕へしことあり。二十二歲の頃より人知れず慈善事業に從事し、明治の初年世は荊棘と亂れし中にも曾て博愛慈善の念を絕たず、常に貧民を集めて稼穡栽培の業を教へ、又自ら資を投じて北文間に長興小學校を創設し、爾來殆十年一日の如く慈善事業に身を委ねたりしに、本年六月八十歲を一期として長逝したり。其間刀自の篤行を受けしもの實に千餘人の多きに及び、十七年十二月には賞勳局より特に木杯一個を下賜されたり。刀自既に世を去りしも、遺族能く其遺志を繼ぎて、今に至るも尙ほ長興小學校に力を盡し、貧兒の教養に從事し居るといふ。聞說、不日刀自の銅像は淺草公園に瓜生岩子の像に對して建てられんとす。されば府下の士人の其像に接するも亦た遠きにあらざるべし。

●英國婦人の慈善　英國婦人リツデル氏は、十數年前に本邦に渡來し、熊本地方遊說の途次偶々同地の本明寺に詣でしに、癩病患者の蹲踞るもの頗る多きを見て、そゞろに惻隱の心を生じ、日本に未だ同病患者を收容する慈善病院なきを聞き、四千坪ばかりの地を購ひ、八年前之れが病院を開きしが、爾來其功績頗る著しく、其經費は目下約五千圓にして、費用の出所は英人數名と日本婦人一名の寄附によりて成立し居るも、患者の增加し來ると共に、經費の增加を來し、廣く世間の慈善家に訴ふる爲め、リツデル氏は目下上京奔走中なりと云ふ。尙ほ同氏の話しによれば、この病院に入りたるものは多くは世に多少の身分ある人々にして、中には妙齡僅に十七、婚期に際して醫の爲に癩病と診せられたるの故を以て、遂に國の家より其居に歸るを欲せず、身を河中に投ぜんとし救はれて此病院に來りたるものあり。其他親戚に棄てられ、友人に斷たれ、又自ら累を此等親戚に及ぼさんことを恐れて、自ら蹤跡を絕つて去りたるものなど、事情の悲惨なるもの少なからず。之れ等の患者を救ひ、病毒の傳播を防ぐは、目下の急務なりと云ひ居れり。

●日本の海軍と列國海軍との比較　我邦は今日世界七大海軍國の第四位に在り即ち本年一月の現在に依れば東洋に於ける列國の海軍力は（英國）九十六万噸（佛國）二十一万噸（露國）十九万噸（米國）十三万噸（伊國）十二万噸（獨國）廿四噸なるも近時各國は何れも擴張計畫を立て獨國の如きは二十二万噸、伊國は二十一万噸と爲さんとせり去れば近き將來即ち四十一年には英國は九十九万噸約百万噸佛國は四十八万噸、露國は三十六万噸と爲り獨國は二十二万噸、伊、米各現在の上に十餘万噸を增し我は遂に最末位に列するに至る可し故に我は今日世界大勢に鑑み國防の大計に則り更に擴張せざるを得ずと云々、是豫算委員會に於る海相說明の一節也。

●多くの勳章を有する婦人　英國のコルンアリス、エスト夫人即ちランドルフ、チャーチル卿未亡人は、英國第一の美人として有名なる人なるが、又英國の婦人中最も多くの勳章を有する人として有名なる由なり。英國に於て婦人に授けらる丶勳章は四種ありて、夫人は其中三種を有すと云ふ。又佛國のレジオンドノール勳章は婦人にも授けらる丶ものなるが、此勳章を與へられたる婦人は二名あるのみ。一名は動物畫家として有名なるロザ、ボンナイル孃にして他の一名は有名なる探檢家デューラフォイ夫人なり。而して此勳章を有する婦人に對し同國の兵士は男子と同樣に軍隊的の敬禮を爲す規定なりと云ふ。

廣告

來る明治三十六年一月十四日麹町區九段坂上偕行社に於て年首且禮會を兼ね評議員總會及東京支部幹事會を開き候に付御來會被下度候也

愛國婦人會本部

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治三十六年度の大改良●第壹號一月一日發行

女學界

歐西文明の潮流世界を風靡して女子の教育家庭の改良は刻下の一大急務となれり女學世界創刊年を閲すること僅に二回開版以來日尚淺きに拘らず今や毎月發刊數萬部に達し創刊以來計上すれば無慮八十萬部の多きに達せり一婦人雜誌として此の如き多數の流布を見るは我國文化の程度に於て聊か誇ると爲すに足るべし是れ元より江湖愛讀諸君の眷顧によるものとは云へ本誌も亦我女學世界の內容時世に切實にして家庭と學窓に對して多少の貢獻ありしによらずんばあらず是に年改まると共に更に一段の改善を施し體裁を新にし實質を選び又新に欄を起して從來の遺漏を補ひ以て平素の愛顧に報いんとす

▲口繪　何時も銅版寫眞十二頁を襍む材料は名媛の小照大家の繪畫彫刻內外風景風俗外築庭園遊戲室內裝飾等其他

▲論說　本欄は社會家庭女子教育に關する時代の潮流を提へ時事の問題を解くを主として名流大家の意見を紹介す

▲家庭　家政の學問をして實際に適應せしむるは本欄の主張にして衛生經濟慰樂育兒料理裝飾等日常必須の事を蒐む

▲文藝　本欄は國語漢文西洋文學の大要を簡潔に平易に記述し初學婦女子の思想を啓發し氣品を高尚ならしむ

▲史傳　本欄は東西古今の賢婦烈女才媛の傳記逸事を掲げ偉人傑士の事歷を尋ね徳性を養ひ育兒の一資料たらしむ

▲科學　專ら學術上の利益を與ふるを目的とし自然界の萬象に就て最も興味ある說示をなし科學的智識の啓發に資す

▲手藝　婦人の技藝は極て多し本項は繪畫彫刻裁縫編物刺繡造花等の實習に手引を掲げて婦女獨立の準備に資す

▲小說　妙齡の女子に小說を讀むの利害は世の疑問なり然れども本誌は其材を選み娛樂の間に人情の機微を知らしむ

▲雜錄　家庭以外の社會諸般の事柄を最も趣味ある筆を以て記し風俗習慣生活の巨細を知るの料となさしむるなり

▲職業　居家の上に於ける婦人の職業極めて多く輓近女學の勃興に伴ふて其地步大に開拓す蓋し本誌は其餘師

▲詞藻　歌は心の花文章は想の錦此欄には江湖才媛の手になる錦繡を叙せんとす絢爛紅紫の彩詠すべく歌ふべし

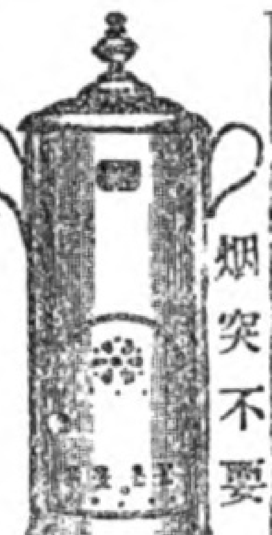
▲彙報　本欄は一月內の婦人界の消息を網羅し其社會上の著しき出來其他の奇聞異報を報導して女界の事情を盡す

新年附錄　一書はがき四葉を添ふ意匠を四季に取り筆者は玉枝、晴翠、耕讀、小鶯の四氏なり

每月一回第二號以下五日發行　年刊十二冊●[illegible]

定價　金一冊二十錢・四冊前金七十五錢・八冊前金壹圓四十五錢・十六冊前金二圓八十錢●郵税一冊金貳錢づゝ

●發兌元　東京日本橋區本町　博文館



日本室用　木炭焚
暖爐
烟突不要

最新式●空氣の乾濕を適度に調製し●
改良器●炭酸瓦斯の發生を防止せる●
●衛生上有益なる日本室用の暖爐●●
●醫學社會の賞賛ある最優等暖爐●●

此器は少量の炭火を以て室內全體を快く溫暖に成し溫度上昇自在にて炭酸瓦斯の害無く火氣にのぼせる憂無く室內空氣の乾濕を適度に調製せる衛生上有益の構造にて安全經濟に持運び自在形狀優美堅固也

●有益の證●此器の衛生上有益なるは宮城縣立病院日本赤十字社東京府立病院以下各府縣立私立病院及び足立軍醫監を始め多數の醫學者方が御試驗の上數個乃至十數個づゝ續々御賞用あるにて證す可く其他文部省外務省農科大學大審院一條公二條公九條公鷹司公島津公徳川公同老公同侯山內公大山侯蜂須賀侯以下八十有餘名の華族方並に佐久間中將寺內大迫中將以下其の他合せて已に二萬個近く御用受け大抵御試用後重て數個御賞用好評を受け候

正價荷造共六圓廿五錢

東京麴町區隼町廿番地　山本賣店

官費私費生徒募集

本校甲種師範科生徒官費私費共若干名を募集す入學志願の者は願書に履歷書及戸籍謄本を添へ來る三十六年二月十六日迄に願出づべし

但詳細は本月十日官報廣告欄にあり

明治卅五年十二月　東京音樂學校

商標

●御袴地●御仕立袴

學校用男女御德用向特別品廉價に販賣仕裁縫は殊に叮嚀を旨とし高尚に仕立申候弊店は古昔より袴專業に候

芝區日蔭町通源助町十三番地

袴專業　住吉屋　犬飼吉兵衛

電話新橋二千百六十五番

◎第六號十二月一日發行(毎月一回一日發行)

婦人界

婦人界第六號目次

▲口繪
揷畫(紅葉　鏑木清方氏極彩色密畫)
寫眞　島の巣(ミニヨン作)　天平時代　成女學校—紅露—比律賓島の婦人—令嬢鑑—名木立—實生九郎氏と其勤非帽

▲婦人界
婦人界より……野田まづま

▲論說
歲末の感慨……一記者
婦人に對する要求……子爵渡邊國武
婦人に對する要求……都築馨六

▲家庭
愛の如き實……森しづか
家庭教育に於ける乳母の地位……文學博士松本愛重
母親と子供……
涙獸類……
庖廚と化學……農學士町井正路
おとゞ斷白韲……三島霜川
齒牙の衛生……ふじ男
乳汁の話……田中紫郎
養蜂の話……さなへ生
牛肉と魚肉料理……松の門

▲小說
三老人……小川煙村
提灯物語……米光關月

▲社會
日本人の眼に映じたる歐米婦人……法學博士高橋作衛
婦人の半面(下田歌子女史)……
月旦　鳩山夫人と山脇夫人……もと子
東京美術學校のモデル……濱涯生
通信　鵜四の旅……みどり園舍主人
流行……

▲文藝
俳句の修辭……文學士佐々醒雪
源氏物語の手引……新保磐次

▲史傳
紅蘭女史……福井學圃

▲詞藻
彼とは誰ぞや……岡歩
木彫のかをり……鈴木秋子
友の手紙(一)……齋藤印花

▲談叢
女子同情會席上……下田歌子

▲時報數件

總裁小松大宮妃殿下
副總裁鍋島侯爵夫人
推戴賛成員有栖川大妃殿下小松若宮妃殿下華頂宮妃殿下梨本宮妃殿下其他賛成貴婦人百餘名

◎定價一冊に付金貳拾錢　郵税貳錢●七冊前金壹圓四拾四錢●十四冊(郵税共)前金貳圓七拾八錢

發行所　東京本町　金港堂書籍株式會社

大日本女學會

會員募集

●本會は明治二十八年の創立にて既に學年を改むること三回講習終了者一萬六千餘人を出せり●講義を囑托せる講師は東京帝國大學華族女學校女子高等師範學校日本女子大學校等の諸教授及び其他博士學士等著名の專門家なり

本會は國家開明の本源たる女子教育の普及發達を圖らんが爲に女子必須の諸學科を掲げたる講義錄を發行し家庭を離れ難き女子をして居ながら通信教授を受けしめ且つ家庭を整ふる人の參考に資す仍て一般女子素養の程度に應じ高等簡易兩科を設くること左の如し

高等科(毎月一回廿五日女學講義發行二個年終了束脩四拾錢月謝四拾錢紙數菊判參百頁)
○倫理坪內雄藏○禮法佐方鎭子○教育學安井哲子○兒童學高島平三郎○國文坂正臣○文法今泉定介○作文同○作歌大口鯛二○美辭學島村瀧太郎○漢文土屋弘○日本歷史大森金五郎○日本婦人列傳下田歌子○萬國歷史喜田貞吉○日本地理同○萬國地理同○地文脇水鐵五郎○理化同○算術上野清○動物渡瀨庄三郎○植物松村任三○生理衛生三宅秀○家事衛生同○小兒衛生三島通良○家事經濟後閑菊野○家庭教育三輪田眞佐子○割烹石井泰次郎○裁縫渡邊辰五郎○習字坂正臣○繪畫武村千佐子○圖案同○美學島村瀧太郎○音樂東儀季治○挿花秀島成績○點茶松浦伯爵○園藝池田伴親○法制經濟岡戸諦介○民法鳩山和夫○社會學岸本能武太○御伽譚○詞藻○質問應答○雜錄○雜報

簡易科(毎月一回九日女學講義發行二個年終了束脩貳拾錢月謝貳拾錢紙數同百五十頁)
○修身談本會編纂○禮法佐方鎭子○國文同○作文今泉定介○漢文土屋弘○日本歷史大森金五郎○日本地理喜田貞吉○算術上野伊志子○博物小此木忠七郎○理化脇水鐵五郎○生理衛生三宅秀○家事綱要後閑菊野○家庭教育三輪田眞佐子○割烹石井泰次郎○裁縫渡邊辰五郎○習字坂正臣○圖畫武村千佐子○史傳下田歌子○御伽譚○詞藻○質問應答○雜錄○雜報

●會則は端書にて請求あり次第送呈す●束脩月謝を添へ申込あれば假入會を許し直に送本すべし

昨年十一月新學年開始　十二卷迄發行　初卷より缺本なし

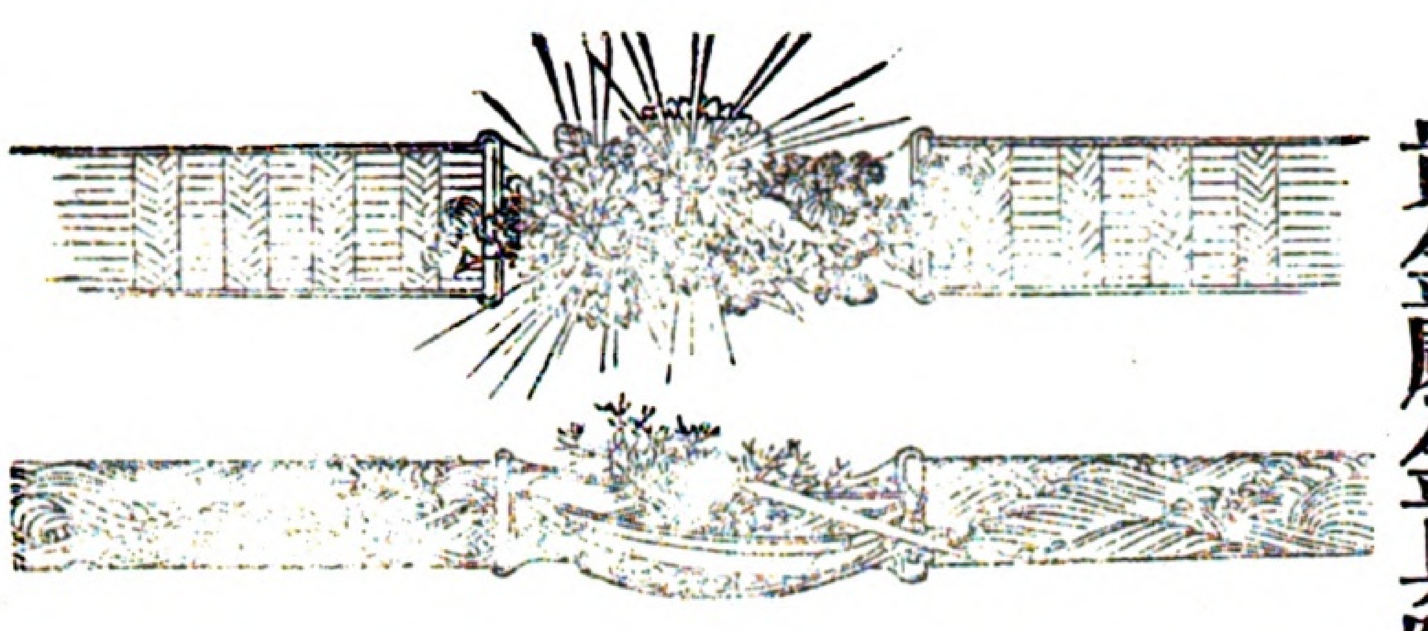
東京麴町下二番町三七(電話番町壹參參)　大日本女學會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎特約販賣店
◎東京堂　神田區表神保町三番地
◎東海堂　京橋區銀座四丁目

東京日本橋區長谷川町
卸部　美濃磯本店
（み）
袴誂專門
袴の親玉
男女用
小賣部　東京本郷區本郷五丁目十五番地
美濃磯支店
電話本局千四百十五番
電話浪花二千八百五十九番
電信略号ミイソ

貴金屬金具附帶締



金具は金又は白金銀赤銅朧銀を以て草木花實鳥虫魚其他高尚なる圖案に基き諸名工の彫刻せし物或はダイヤモンドルビー眞珠其外諸寶石を嵌入し紐は金襴錦朱珍綿古代打等凡て模樣打方まで意を込めし優美なる製作なり
○金製金具付正價　十五圓より　五十圓迄
右等は金性及彫刻寶石玉の確なるを保證致す爲一品毎に證明書を添付す
○赤銅及銀盤其他定價三圓より八圓迄

東京市南傳馬町二丁目
白牡丹　大西榮輔
電話本局三十番

水原産科婦人科病院
○所在神田區猿樂町十二番地（電話本局千八百〇九番）○外來診察午前中○入院隨時○同院に私立産婆學校ノ設置あり

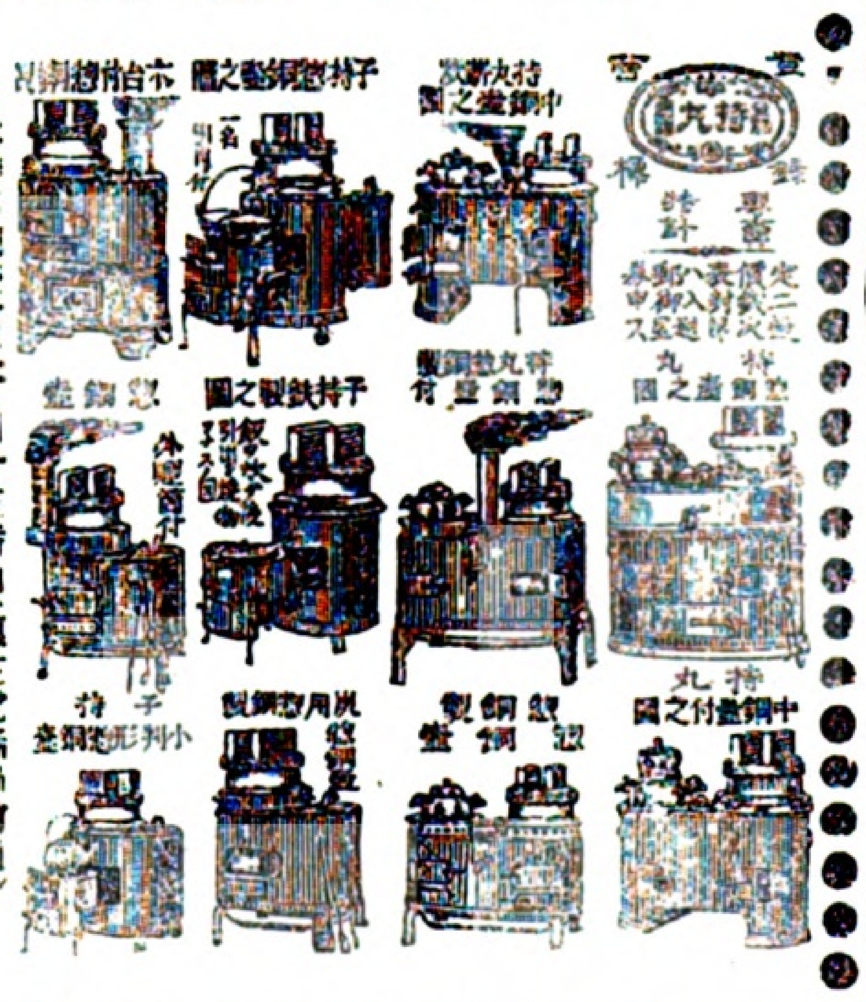
目
從五日本年中　だらく大賣出　景品御呈
半ゑり帯揚　縮緬肩掛其外勤多
大々大見切　組合せ半ゑり　福箱ハ拾錢壹圓
○紋附頭巾地○下締め○帛紗○帯止○前掛雀形
○ゑり治形まげ入　元祖御小裁

三大醫先生實驗有効證明　高等化粧用洗粉
顏肌美白洗劑　チヱリー　バワイオレット麝香入
定價　大瓶三十錢　小瓶十二錢
新橋竹川町十二　發賣元
電話新橋二〇二七　本舗　ゑり治

帝國貯蓄銀行
銀座一丁目河岸通り　八一六番
本郷一丁目　本郷支店
飯倉四ッ辻　飯倉支店
赤坂一ッ木一丁目　赤坂支店
四谷大通り　四谷支店
南品川一丁目　品川支店
横濱吉田町　横濱支店
牛込神樂坂　神樂坂支店
神田須田町　須田町支店
兩國米澤町　米澤町支店
淺草雷門前　吾妻橋支店
日本橋坂本町　代理店　田中銀行
●一銭以上何程にても御預り最も御便利に取扱申候
●毎月五日迄の御預け金は全月分の利子を付け申候

婦女小訓
英國ハムフリー夫人原著　落合浪雄譯幷に補　定價參拾錢　郵税四錢
英國婦人界に於ける近來の好著として評判高き新書を譯したもので現代婦人に與せらるゝ資格より婦人ノ態度學悟等を遺る所なく説き示して殊に母と娘女學生家庭の風儀は評判に違はぬ有益なる訓である
出版元　東京神田區南甲賀町八　内外出版協會

等貝付計竈谷種



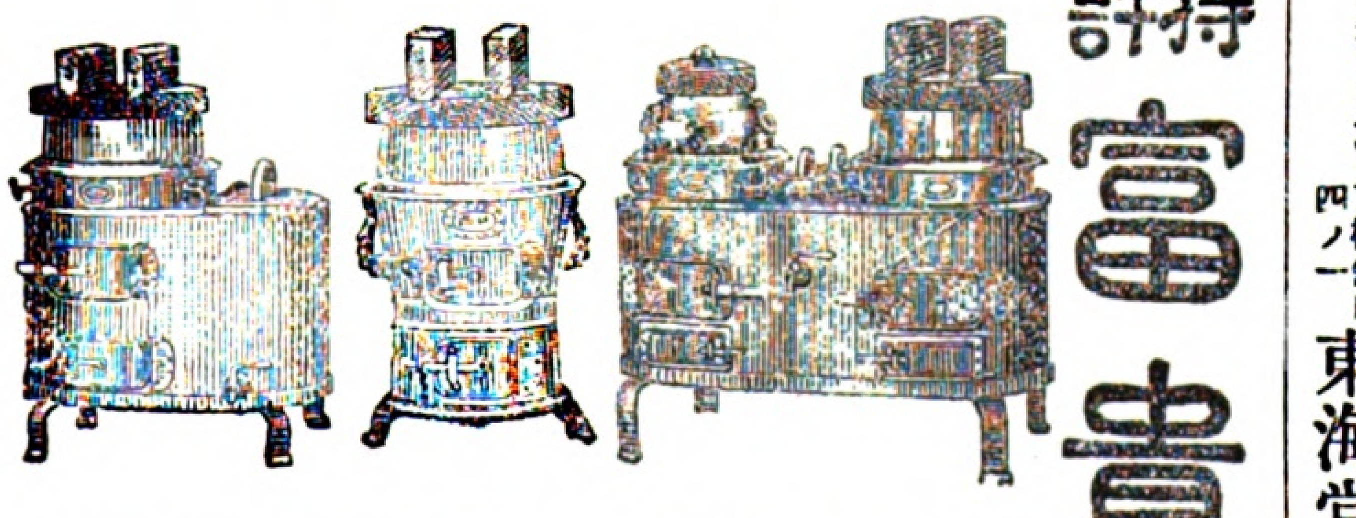
製造發賣元　日本橋區蠣殻町二丁目十五番地（浪花電話局前通）名和商店
神田區松永町十八番地和泉橋通　名和支店

稟告
出發ノ際ハ總代トシテ松前高木中山三評議員新橋マテ御見送被下難有奉存候乍畧儀以紙上右御禮申上候也
在清國福州　增田高頼

總裁小松大宮妃殿下　副總裁鍋島侯爵令夫人
をんな
大日本女學會發行　東京麹町區下二番町二十七
第二巻第十二號發兌　十二月十五日發刊
毎月一回十五日發行定價金十五錢全國無遞送料
（巻首銘題）山内・蜂須賀・伊達三侯爵夫人筆（論説）歐米諸國の慈善事業に就いて、澁澤男爵●幸福の觀念、棚橋絢子●女子美術學校新築落成式祝辭、藤田文藏●三輪田女學校開校式祝辭、承前、成瀬仁藏（學藝）和書解題（伊勢物語）吉田女學士●漢文解題（新五代史中仙五書）丸井女學士●作歌批評、今泉定介●作歌批評、大口鯛二●日本夕婦批評（福依賣）下田歌子●沙翁姉慨（承前）中島孤島●音樂の話、森いづか（修身）歐洲女德源史、其二、木田増太郎（齊家）點茶、松浦伯爵●割烹、石井泰次郎●家計收支の實況（世務）汁粉談（醫療）岡田汁學十●經濟談（取引所）伊藤秋南●各地産鹽の實況（二十七）反魂丹S・I生（史傳）ワシントンノ母、吸江生（詞藻）十一月の詞、中村秋香●一字題三十首、大口鯛二●田邊和氣子日記●みやひ會月詞藻（錦錄）刺繍（承前）木村仲子●婦人論梗概（彙報）内外要報十數件

大賣捌
神田表神保町三　東京堂
京橋銀座四ノ一　東海堂
神田一橋通町七　有斐閣
日本橋鈴屋町六ノ三　北隆館

特許　富貴竈
炭薪兼用コークス



富貴竈は經濟便利と構造の堅牢に於て遙かに他品に優る所の完全なる竈なり説明書御申越次第進呈す
總鑄鐵製
一升器　一圓九十錢
二升器　二圓二十錢
三升器　二圓七十錢
四升器　三圓二十錢
五升器　四圓二十錢
六升器　五圓二十錢
七升器　六圓二十錢
此外鐵板製幷に銅製銅壺附定價略す
販賣店全國到る所にあり
東京淺草茅町淺草橋際
發賣本舗　阿部彦商店
電話浪花一九二三

明治三十五年十二月廿五日發行（毎月十日廿五日二回）
明治三十五年三月廿七日第三種郵便物認可
發行兼印刷人　山澤俊夫
編輯人　手島益雄
發行所　大日本女學會內
印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人第十九號附錄

帝國圖書館
IMPERIAL LIBRARY

評議員
子爵山地元彦母堂山地謙子

徳島縣支部幹事長
徳島縣知事龜井英三郎夫人龜井眞洲子

京都支部幹事
八田一精夫人八田艶子

明治三十五年十二月廿五日發行（毎月十日廿五日二回）
明治三十五年三月廿七日第三種郵便物認可

發行兼印刷人 山澤俊夫 編輯人 手島益雄 發行所 大日本女學會内愛國婦人發行所
印刷所 東京市牛込區市ケ谷加賀町一丁目十二番地 株式會社秀英舍第一工場

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN